

地球温暖化対策の「適応」について

環境保全課温暖化対策室

世界平均気温は過去100年で0.74℃上昇し、近年になるほど温暖化の傾向が加速しています。日本の平均気温も、1898～2008年の観測結果によると、100年当たり1.11℃の割合で上昇しています。

今後、世界平均気温は、21世紀末までに、最も気温上昇の小さいシナリオでも約1.8℃上昇すると予測されているほか、仮に今すぐ温室効果ガスの排出を止めたとしても気温の上昇は避けられないとされています。

「適応」とは、温暖化が避けられないものとして、すでに起こっている、あるいは今後起こる影響に対して対応をし人間社会を調整し、被害を少なくすることを言います。

※「適応」に対して、CO2排出削減に取り組む省エネ等の温暖化対策は「緩和」と言います。

(起こる現象と適応策の例 ※温暖化の影響によるか明らかでない現象も含む)

分野	起こる現象	適応策の例
防災	<ul style="list-style-type: none"> 大雨の頻度の増加により、河川災害、土砂災害、浸水被害等の発生頻度の増加と被害の拡大 少雨化・降水量の変動幅の増大 海面水位の上昇により、浸水域の拡大や砂浜の喪失等 台風の強大化に伴う高潮の増大により、浸水被害等の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 河川、洪水調整施設や下水道施設の整備、土地利用の規制、洪水発生時の減災対策等 雨水や再生水の活用を通じた、渇水時における水資源の確保等 洪水の予報、警報等の危機管理情報提供の強化等
食料	<ul style="list-style-type: none"> 農産物生産現場における高温障害による品質低下 畜産物生産現場における発育の低下、繁殖面の悪影響等 	<ul style="list-style-type: none"> 高温耐性品種への転換 畜舎等の温度管理
生活	<ul style="list-style-type: none"> ヒートアイランド現象 	<ul style="list-style-type: none"> 屋上、壁面等の緑化 高反射性塗装の活用 都市における緑地の保全 クールシェア(※)
健康	<ul style="list-style-type: none"> 熱中症の増加 新たな感染症の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識、対処法等のマニュアルの整備

※クールシェアとは、暑い時はみんなでいっしょに涼しい場所に集まり、ゆったりとした時間を過ごすことです。クールシェアをするにはご自宅のほか、多くの人に開かれゆっくりとできる場所、クールシェアスポットの利用が勧められています。